

# 少労働力で野菜に移行するヒント（加工用トマトの契約生産）

## 山形県の加工用トマト産地拡大プロジェクト

- 稲作など土地利用型農業単一経営から野菜を入れた複合経営に移行する場合、問題となるのが労働時間と労働力が一気に数倍になること
- 北陸の生産現場からは、これまで稲作だけの農業者が野菜に切り替えることは多くの面で困難が多い、排水条件に加え、特に、
  - ・ 野菜生産には、収穫・選果で多くの手間・労働力が必要だが、地域に労働力がない
  - ・ せっかく生産しても市況で価格変動が激しく安定した収益につながらないとの声
- 労働力不足と収益不安をクリアする可能性として、加工用トマトの契約栽培を検証

### （なぜ加工用トマトなのか？）

- H29年土地改良を機に園芸作物導入計画を立て、加工用トマトに挑戦
- 食品メーカー（カゴメ）との契約栽培で一定価格が保証。
- 導入段階でカゴメから支援が豊富（生育指導や機械のリース等）
- 加工用は収穫・調整・選果が不要でプラコンテナで工場直送
- 販売額（単収6トン/10aの場合）は、25万円（農家手取り約15万）
  - ・ 経営規模：92ha（コメ、大豆）、園芸（啓翁桜、加工用トマト、里芋）
  - ・ 農家手取額は、（一社）全国トマト工業会「加工用トマト産地拡大プロジェクト」資料で試算